

和名：ヘシアンバエ

学名：*Mayetiola destructor* (Say)

英名：Hessian fly

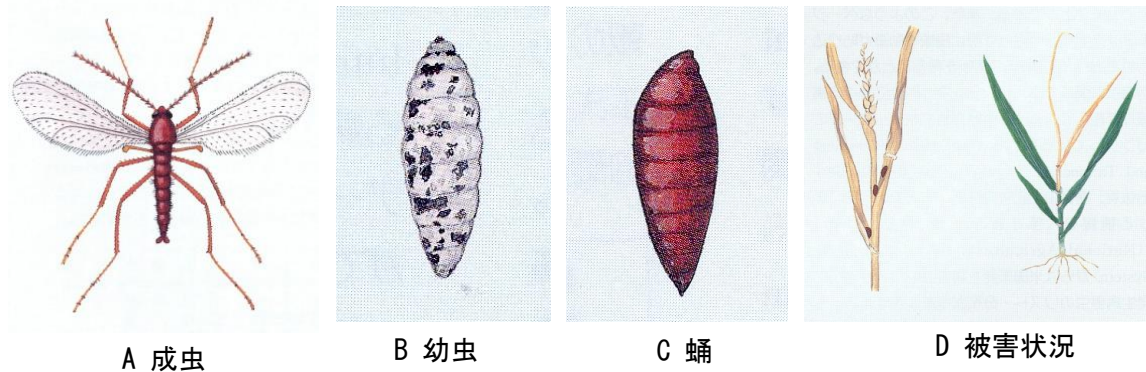


図 ヘシアンバエと被害状況

### 分布

ヨーロッパ、ロシア、西アジア、北アフリカ、ニュージーランド、アメリカ、カナダ等

### 寄主植物

コムギ属、オオムギ属、ライムギ属及びカモジグサ属等の茎葉

### 形態

成虫は体長約2～3mmで、外観は蚊に良く似ている。雄は腹部末端の把握器が顕著で、雌は伸縮自在の産卵管を備える。卵は長さ約0.5mmで半透明。孵化直後の幼虫は0.4～0.5mmで、赤色を帯びる。老熟すると約2mmになる。後に体表が硬化し暗褐色の囲蛹となる。

### 生態

年2～6世代で、春世代と秋世代が認められる。春世代はコムギの刈り株や自生コムギで越冬した囲蛹から成虫が羽化する。羽化期間は3週間以上続くが、寿命は2～3日で、その間に交尾・産卵を行う。雌は新葉や幼苗の表面の葉脈に沿って産卵する。1雌産卵数は100～200卵。3～10日で孵化した幼虫は葉鞘内に入り下降し、吸汁を始める。幼虫期間は2～3週間。なお、囲蛹は2齢幼虫の外皮でできており、この内部で3齢を経て蛹化する。蛹期間は温度により変動し、6～33日である。春世代が産卵し、成長した幼虫は囲蛹で夏眠し、秋に羽化して秋世代となる。

### 被害

加害を受けたコムギは成長が進むと中心茎が黄化し、枯死する。成長したコムギでは白穂となり、深刻な被害が生じる。